８福薬発第２２４号
令和８年１１月１２日

各地区薬剤師会会長　殿

公益社団法人福岡県薬剤師会
会長　小田　真稔

「「薬害」の歴史に関する「昭和 100 年」特別展示」の周知について（依頼）

平素より本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきまして、日本薬剤師会より周知依頼がございましたので、別添のとおりご案内申し上げます。

令和８年に、昭和元年から起算して満 100 年を迎えるところ、これを契機に昭和を顧み、将来に思いを致すことは大変意義深いことから、「昭和 100 年」関連施策を推進することとされています。このことを踏まえ、薬害が発生した昭和期の歴史を振り返り、社会全体の理解を広げるため、「「薬害」の歴史に関する「昭和 100 年」特別展示」が下記のとおり開催されます。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、貴会会員へのご周知のほどよろしくお願いいたします。

記

1. 日時 ： 令和8年12月5日（土）～12月13日（日）
2. 場所 ： 京都市勧業館みやこめっせ地下展示場

以上

日薬発第２０９号
令和８年１１月１０日

都道府県薬剤師会会長　殿

日本薬剤師会
会長　岩月　進
（会長印省略）

「「薬害」の歴史に関する「昭和 100 年」特別展示」の周知について（依頼）

平素より本会会務に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

標記について、厚生労働省医薬局総務課医薬品副作用被害対策室長より別添のとおり通知がありましたのでお知らせいたします。

厚生労働省では、「薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しについて」（最終提言）を踏まえ、薬害の再発防止に取り組んでいます。

令和８年に、昭和元年から起算して満 100 年を迎えるところ、これを契機に昭和を顧み、将来に思いを致すことは大変意義深いことから、「昭和 100 年」関連施策を推進することとされています。このことを踏まえ、薬害が発生した昭和期の歴史を振り返り、社会全体の理解を広げるため、「「薬害」の歴史に関する「昭和 100 年」特別展示」が下記のとおり開催されます。

つきましては、会務ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、本件につきご了知賜りますと共に、貴会会員等にご周知下さるようお願い申し上げます。

記

１．日時：令和８年１２月５日（土）～１２月１３日（日）
２．場所：京都市勧業館みやこめっせ地下展示場

以上

＜別添＞
○厚生労働省「「薬害」の歴史に関する「昭和 100 年」特別展示」の周知について（協力依頼）
○薬害の歴史をひも解く－医薬品の光と影　ひといのちの 100 年－

事　務　連　絡
令和８年 10 月 30 日

公益社団法人 日本薬剤師会 会長　殿

厚生労働省医薬局総務課
医薬品副作用被害対策室長

「「薬害」の歴史に関する「昭和 100 年」特別展示」の周知について
（協力依頼）

平素より医薬品行政の推進に御理解及び御協力を賜り誠にありがとうございます。

厚生労働省では、「薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しについて」（最終提言）を踏まえ、薬害の再発防止に取り組んでいます。

令和８年に、昭和元年から起算して満 100 年を迎えるところ、これを契機に昭和を顧み、将来に思いを致すことは大変意義深いことから、「昭和 100 年」関連施策を推進することとされています。このことを踏まえ、薬害が発生した昭和期の歴史を振り返り、社会全体の理解を広げるため、「「薬害」の歴史に関する「昭和 100 年」特別展示」を下記のとおり開催します。

「最終提言」においては、医療関係者や製薬企業において薬害問題を学ぶことの重要性も指摘されていることから、貴職においてご了知のうえ、貴法人等の会員及び役職員又は管下の医療機関等に対して周知をお願いします。

記

１　実施場所
京都市勧業館みやこめっせ地下展示場（入場無料）

２　実施期間
令和８年 12 月５日（土）から同年 12 月 13 日（日）まで

３　実施主体

一般社団法人薬害研究資料館

（https://yakugai.org/）

４　参考

・　内閣官房「昭和 100 年」ポータルサイト

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/showa100nen/portal/events/170/index.html

（本件通知に関する照会先）

厚生労働省医薬局総務課医薬品副作用被害対策室

古宮（内線２７１７）、籔田・笠井（内線２９０２）

（代表電話）０３－５２５３－１１１１

（直通電話）０３－３５９５－２４００

Eメール：fukutai01@mhlw.go.jp

（特別展示の内容に関する照会先）

一般社団法人薬害研究資料館

電話番号：０７５－３３４－９４３３（金曜日から月曜日の１０時から１６時まで）

Eメール：contact@yakugai.org

「昭和100年」ポータルサイト

企画展示	京都府

薬害の歴史をひも解く―医薬品の光と影 ひとといのちの100年―



医薬品と薬害の歴史を展示するとともに、フォーラム、映画上映など関連イベントを開する。
また、2027年2月には、PMDA独立行政法人医薬品医療機器総合機構、東京都千代田区）の「薬害の歴史展示室」にポップアップ展示を行う。

開催日時	2026年12月5日(土) ～ 2026年12月13日(日)
開催場所	京都市勧業館みやこめっせ
ホームページ	https://yakugai.org/showa/
参考資料	チラシ裏面.pdf

検索へもどる

薬害の歴史をひも解く

ー医薬品の光と影　ひといのちの100年ー

昭和初期、医薬品の国産化が推進され、欧米の技術を導入した生産が拡大しました。戦後は感染症に対する抗生物質の増産が急務となり、抗生物質とワクチンは国の公衆衛生政策の要となる医薬品に位置付けられました。

一方、医薬品の生産拡大と薬害は常に表裏にありました。ジフテリア予防接種禍やストレプトマイシン難聴、ペニシリンショックが姿を現し、国民皆保険制度が成立した1961年（昭和36年）にはサリドマイド薬害が生じています。

本展示では、昭和100年という時間軸における医薬、薬害、公衆衛生政策の流れを並列し、歴史の交差を描くことを試みました。また、薬害という概念を生み出すきっかけともなった公害との関連にも目を配り、歴史的文脈において薬害が占める位置を明らかにします。加えて被害に遭った人々の物語も伝えたいと思います。

展示

薬害歴史展示

昭和百年史において、主に戦後から繰り返される薬害の歴史を写真や資料、年表などを用いて分かりやすく展示

薬害被害者の肖像

薬害被害者の肖像写真を配置して、被害者一人ひとりのナラティブに触れることのできる展示

映画

「阿賀に生きる」　12月5日　17:00-20:00

山間の鹿瀬(かのせ)町に住む長谷川芳男・ミヤエさん夫婦は先祖代々田んぼを守り続けている。阿賀野川に浮かぶ舟の大半ー200隻以上の川舟を造った大工・遠藤武さんとそれを見守る妻ミキさん、名人と呼ばれる餅つき職人・加藤作二さんとその妻キソさんら3組の夫婦の日常をカメラが追い続ける。新潟水俣病という社会的なテーマを根底に据えたドキュメンタリー

＋鼎談「水俣病からスモンへ」小林茂（映画監督）秦岳志（京都芸術大学）花井十伍（薬害研究資料館）

「ノーモアスモン」　12月12日　13:00-14:30

キノホルムという薬品によって、いのちと健康を侵された人たちのいのちの叫び。薬害根絶のために身を削って運動する人たちの生きざま。

＋鼎談「薬害スモン」石下洋子、柳田かや子（広島スモンの会）花井十伍（薬害研究資料館）

「薬に病む　クロロキン網膜症」　12月13日　12:00-14:30

たとえて言えば、薬の海にいくつものしたいが浮いていますよく見ると、溺れかかっている人がもっといますはっとまわりを見まわすと、自分もその海の中につかっていました

＋対談「クロロキン薬害」本郷正武（桃山学院大学）花井十伍（薬害研究資料館）

シンポジウム

薬害を教育にどう伝えていくか　12月6日　13:00-15:00

平田收正（京都薬科大学）粂和彦（名古屋市立大学）上村浩代（厚生労働省）勝村久司（薬害研究資料館）

サリドマイド被害の現在地　12月12日　14:45-16:45

増山ゆかり（OneTeam）王廷傑（Finding Taiwanese Thalidomide Survivors）佐藤嗣道（公益財団法人いしずえ）
蘭由岐子（追手門学院大学）司会　佐藤哲彦（関西学院大学）通訳　高町晃司（京都スモンの会）

薬害とメディア　12月13日　14:45-16:45

藤谷和広（朝日新聞）玉木達也（毎日新聞）岡本晃明（京都新聞）迫田朋子（元NHK）勝村久司（薬害研究資料館）

フォーラム

薬害根絶フォーラム　12月5日　13:15-16:30

全国薬害被害者団体連絡協議会主催による、薬害根絶を目指すフォーラム